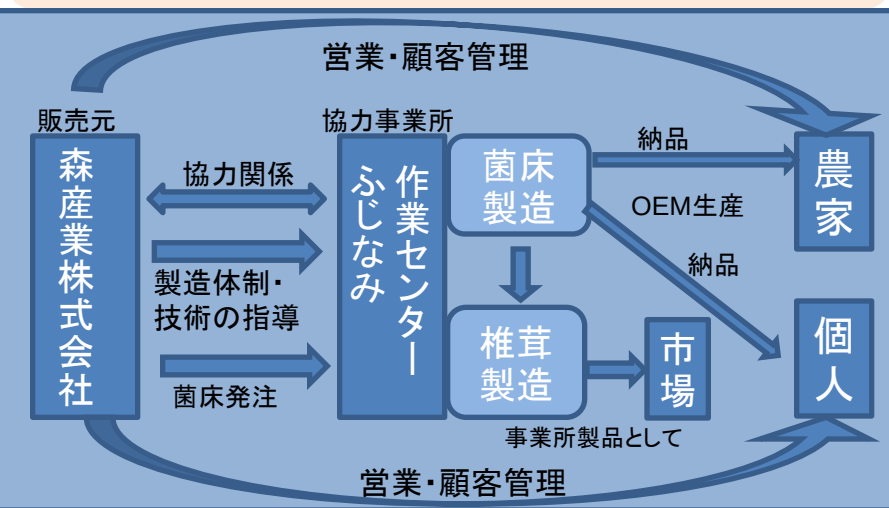


【カテゴリ4】企業連携

菌床販売企業との連携で菌床づくりから椎茸生産までの一貫生産、販売を実現

Point

- 菌床販売会社の協力事業所として連携
- 製造体制から技術指導まで企業がバックアップ
- 事業所内の生産管理には民間企業経験者を配置



事業実施のきっかけ、経緯

●自閉症の人たちに仕事の提供をという思いと、売れ続ける商品作りをしたいという考えのもと、北海道函館市にある多機能型事業所「おしま菌床きのこセンター」を園長が訪れたことがきっかけとなる。そこで行われていた菌床づくりから椎茸生産までの一貫生産を事業所に取り入れるために、富山県圏域を統括する菌床椎茸のOEM生産の販売元である森産業株式会社を紹介され、業務提携を結んだ。「おしま菌床きのこセンター」訪問後、森産業株式会社のサポートのもと6年の歳月をかけて生産体制を整え、平成17年に作業センターふじなみを事業所として立ち上げた。

事業概要

- 販売元企業の指導のもと、製造・生産体制が整えられた。菌床は、企業からの発注に応じて出荷を行っている。製造した菌床での椎茸栽培も行っており、事業所製品として地元の市場に卸している。一括買い上げ方式のため、毎日の価格変動はあるが、確実に売上をあげることができる。
- 栽培技術面は企業からのノウハウを取り入れ、事業所内部では生産管理を民間企業経験者に任せ、利用者支援を福祉施設経験者が担当することで、効率的な生産体制を整えた。
- 販売元企業の担当者が週2・3回訪問し、生産・品質管理のアドバイスを適宜行っているため、品質の安定に繋がっている。

成果

- 菌床の仕込みから椎茸の収穫、販売までを職員と利用者がともに働ける仕組み・環境を整えることで、働き手としての利用者の力を最大限発揮させ売上を伸ばしている。
- 製造システムを作り上げることで、利用者が主体的に仕事を行い、高工賃を得るだけではなく、働く喜びややりがいに繋がっている。
- 昨年度の売上実績は、菌床で4,000万円、椎茸で4,000万円。このうち、1,000万円を工賃として還元。

今後の展望

- 現在は、設備投資の返済や管理コストがかさんでいるため、生産技術を向上させることで、1菌床当たりの椎茸収穫量のさらなるアップと、椎茸栽培のハウスを増やし年間売上1億円を目指したい。



菌床の原料のおがくずと栄養体が混ざられている様子



職員と利用者が菌床を袋詰めしている様子



袋詰めした菌床の培養室



利用者が協力して菌床の出荷作業を行う



椎茸栽培を行うビニールハウスと菌床搬入用のトラック

事業所より一言

全国の方々においしい椎茸を届けて評価を高めたいです。利用者には生き生きと楽しく働いてもらい、高い工賃を支給して、富山一、日本一の事業所を目指していきます。

本事例の事業所紹介



社会福祉法人めひの野園
作業センターふじなみ
〒930-0143
富山県富山市西金屋6694-4

TEL 076-436-7673 FAX 076-436-7679



椎茸の軸を切る利用者

菌床



販売用生椎茸

【カテゴリ4】企業との連携

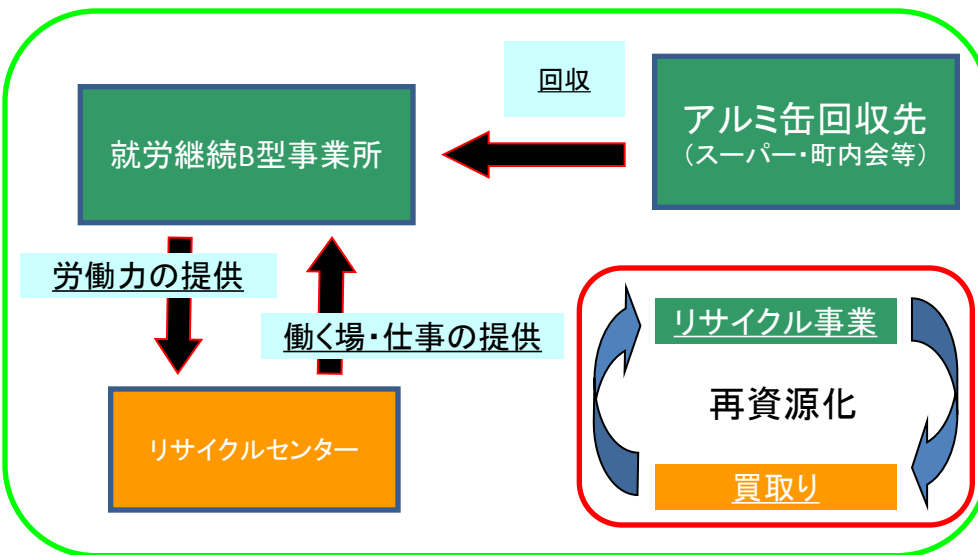
【リサイクルセンターと連携した施設外就労】

Point



施設外就労の活用

アルミ缶リサイクル事業との連携



事業実施のきっかけ、経緯

事業所でアルミ缶リサイクル事業に取り組んでおり、アルミ塊を買い取ってもらうようになった。その後、試験的に施設外就労に取り組み、人材を育成し、参加日数や人数を増やしていった。

事業概要

リサイクルセンター内で飲料容器(缶・ペットボトル・ビン)の分別作業

事業所で成型したアルミ塊の買取り

成果

時給で請負契約を行うことで、高い工賃支給に貢献している。

民間企業で働くことで、利用者の労働意欲の維持・向上に寄与する。

社会との関わりを持つことで、社会性を身につけることができる。

今後の展望

人材育成をすることで、参加人数の増加を目指し、高い工賃を受け取れる利用者を増やす。

雇用に繋がるような人材を育成する。



本事例の事業所紹介

社会福祉法人 富明会

〒921-8834

石川県野々市市中林1-1-1

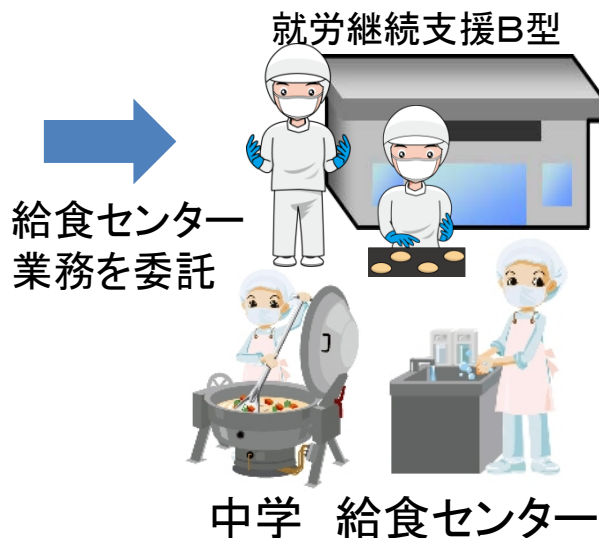
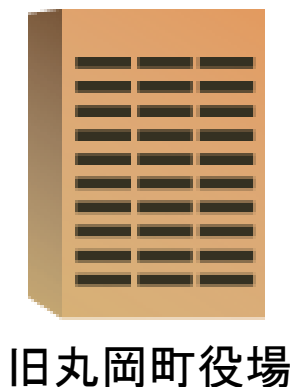
TEL 076-248-4871 FAX076-248-4893

【一筆啓上。わが校の給食はおいしいです。そして楽しいです（給食センターの業務委託）。】

Point



- 給食センターでの優先発注事例
- 給食センターにて業務委託を行う
- 障害者就労施設からの食物の購入等の波及期待



本事例の背景

- 丸岡町長が就労継続支援A型に給食センターの業務委託を行う。
給食センター内で盛り付け、簡単な調理、配食等を委託しており、33名の知的障害者がそれら教務を行っている。
- 461人（生徒428人、職員33人）が一堂に会しての給食業務をおこなっている。
- A・B2種類のメニューから、自分が食べたいものを選ぶカフェテリア方式で配ぜんされている。

本事例おける、それぞれの役割や経過

就労継続支援A型

- 朝8時半出勤。中学に隣接した丸岡南中事業所に出勤した社員はユニフォームに着替え、一人ひとり体調や衛生チェックを職員から受け、それぞれの持ち場につく。
- 提供する給食の主なものは、事業所内のセントラルキッチンで下処理、加熱調理されるため、調理されたものはクックチル方式で保存され、翌日提供している。そのため、利用者が簡単な調理（再加熱処理等）は行えるよう環境改善されている。
- 前日調理された料理が翌日、学校のサテライトキッチンに配達される。

給食センター

- 優先調達推進法の施行に伴い、給食センターの業務委託に加え、更に地域の障害者就労支援施設が作る農作物の購入も行うようになった。

本事例における効果

- 給食センターの業務委託の成功から更に発展し、農作物の購入等のさらなる発注につながっている。

「C・ネットふくい丸岡南中事業所」の事業所紹介



C・ネットふくい丸岡南中事業所
〒910-0355
福井県坂井市丸岡町高瀬15字11-1

カテゴリ【4】企業との連携

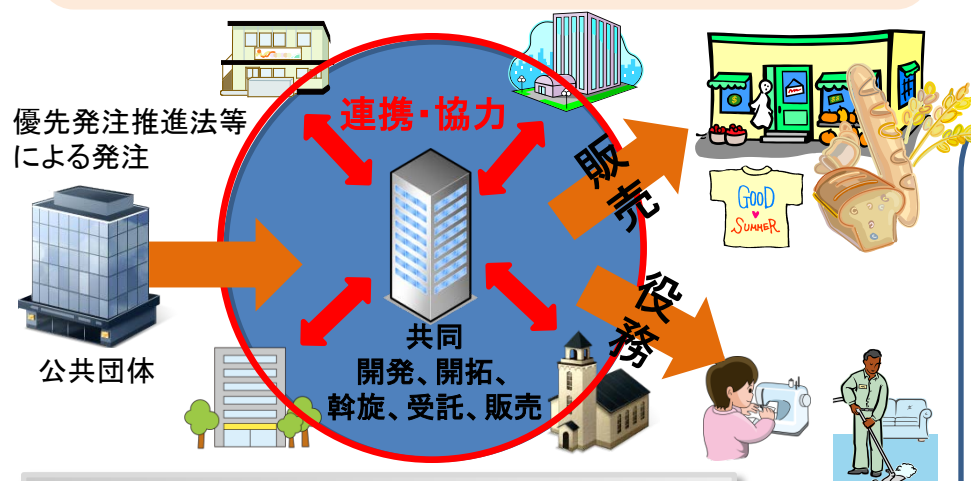
越前市内障害者施設連携 越前市社会就労センター協議会の

取り組み

Point



- 障害者の社会就労事業の振興
- 障害者福祉の増進
- 地域における就労の確保、自立促進



事業実施のきっかけ、経緯

●セルプショップえちぜんでの授産製品の販売をしたが、効果が薄く、営業活動を強化して授産製品の拡大に努めることにした。

● 公共団体からの優先発注推進法の窓口としての強化路線に切り替え

事業概要

- 授産製品の共同販売・販路拡大・斡旋
- 作業の共同開発、開拓、斡旋
- 施設外就労の範囲拡大、斡旋

成 果

- 福祉フェスタに参加し、授産製品の販売、授産施設の紹介、また当日のスタッフ弁当を受注、来場者のための記念品としてエコバッグ・ペットボトルケースの受注をうけた。利用者と来場者が直接触れ合うことで利用者の自立と自信、喜びにつながった
- 絵本作家かこさとし展を市の施設で開催するにあたり、作者と授産施設が共同制作した、Tシャツ・シール・パンなどを利用者が販売。市内の施設で協力し合い参加した結果施設間のつながりが強化された
- 公共団体からの優先発注推進法の実施に伴い市などから授産製品や役務の受注が増加しつつある

今後の展望

- 公共団体からの優先発注推進法の実施に伴い市などから授産製品や役務の受注が増加しつつある



事業所より一言

新しい作業の受注発掘をめざしています

本事例の事業所紹介

越前市社会就労センター協議会

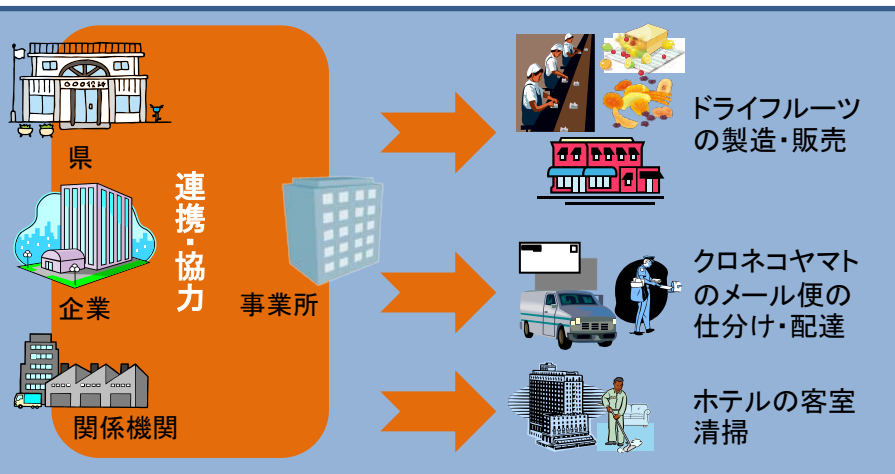
〒915-0051 福井県越前市帆山町5-31-1

TEL & FAX 0778-23-6855

【障害者の働く場の提供】

Point

- 施設外就労の活用
- ドライフルーツ店の市場進出
- 企業との連携による商品開発



事業実施のきっかけ、経緯

- 精神障害者及び回復者を様々な面からトータルで継続してサポートしていくために、今までの任意団体の活動から、法人として責任をもって運営していく体制が必要となり、平成19年4月2日に設立した。
- 利用者の工賃を上げていくため、社会性を身に着けるためにクロネコヤマトのメール便の配達、仕分け作業、ホテルの客室清掃などを行う。
- 利用者の工賃を上げていくためドライフルーツの製造、販売を行う。

事業概要

- 地域のなかで暮らしやすい環境を作るために各機関と連携を持ちながら、障害者が地域で安定して生活していくための支援を行っています。
- 働く場の提供（クロネコヤマトのメール便の配達、仕分けやホテルの客室清掃）
- ドライフルーツ製造の立ち上げ
企業と連携しドライフルーツの製造を開始。また、独自のドライフルーツ製造及び販売ルートの開拓。

成果

- 精神科に入院していた人や病院のDCを利用していただいていた人が当事業所に通ってくることで地域で安定して生活している。
- クロネコヤマトやホテル清掃の外部の仕事をする事で社会性が身についた。
- 企業や関係機関と連携・協力することによりドライフルーツ製造等にかかるノウハウを習得し新たな商品開発が行えた。

今後の展望

- ドライフルーツの製造、販売を軌道にのせていく
- 日売品の開拓



事業所より一言

利用者の工賃収入アップの為、利用者と職員の連携により、独自事業(ドライフルーツ製造・販売)を展開しています。

本事例の事業所紹介

特定非営利活動法人 かしのみ

〒400-0034
山梨県甲府市宝1-29-9

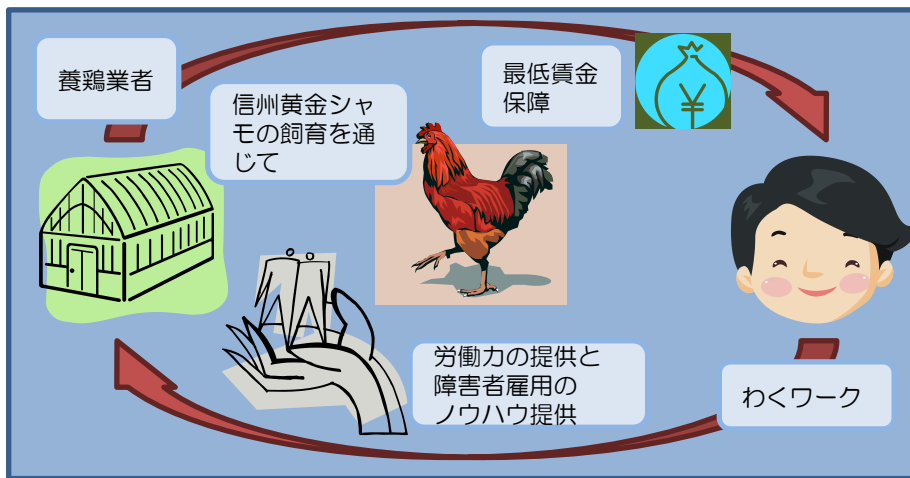
TEL 055-232-6613 FAX 055-206-1681



【信州黄金シャモの飼育】

Point

- 長野県が定めた地鶏「信州黄金シャモ」の飼育
- ユニットによる施設外就労で工賃アップ
- 障害者就労支援に対する理解を深めつつある



事業実施のきっかけ、経緯

●地鶏の飼育を通じて地域の活性化に取り組む養鶏業者から、障害者雇用の相談を受け、テストケース的に職員同行のユニット就労を開始した。時期によって出荷数に変動がある事に加え、鶏舎が山間部にあって公共交通機関が不便なため、雇用には至っていないが、最低賃金が保障されることにより、利用者さんの工賃アップに繋がる施設外就労となっている。

事業概要

- 長野県独自の地鶏「信州黄金シャモ」の飼育。主にエサや水の管理、鶏舎内の環境維持、出荷など。
- 利用者さん2名、職員1名のユニットで、養鶏業者に赴いて実施する施設外就労。
- 最低賃金の保障を受けながら、週3日従事。

成果

- 作業を通じて、衛生管理、計数、効率追求などの実業系経験を獲得し、就労に対する責任感を身につける事ができた。
- 最低賃金の保障により、工賃が向上した。
- 経営者や従業員に対して、障害者雇用のノウハウとポイントを伝える事ができ、啓蒙活動の一環となった。

今後の展望

- 農場HACCP推進農場認証を目指し、更に安全と効率を追求した事業を目指す。
- 作業従事者数と従事日数の増加を求め、工賃アップを目指す。



緑豊かな山間地に
鶏舎があります。



エサの残量を計算しな
がら補充しています。



新鮮な水のチェックと
補充は欠かせません。



私たちが育てた、信州黄金シャモです。

事業所より一言

養鶏だけでなく、畑作業や清掃作業、販売の他にも、
企業から委託された様々な事業を行なっています。
楽しみながら働くことで、自分に自信を持てる人にな
れるように...「共に生き、共に暮らす」を体現していく。
それがわくワークなのです。

本事例の事業所紹介



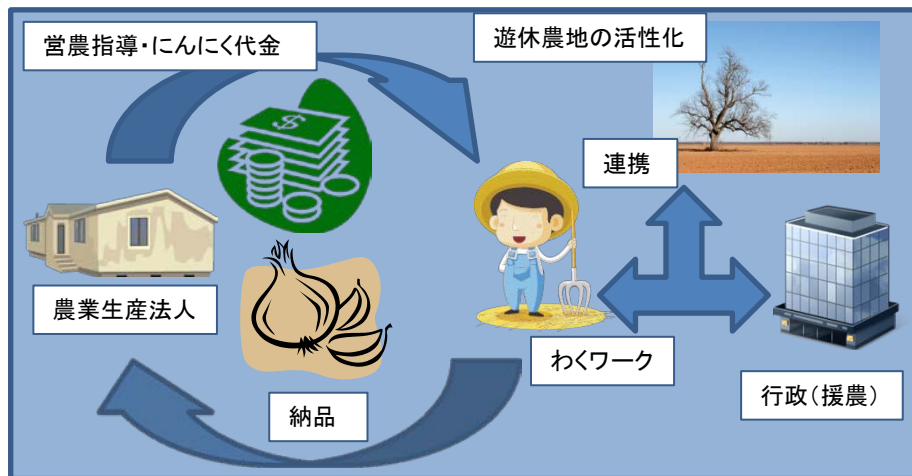
社会福祉法人 花工房福祉会
就労継続支援B型事業所わくワーク
〒380-0803
長野県長野市三輪8-51-36
アサバハイツ宇木2F-8

TEL/FAX: 026-233-5210

【無臭にんにくの栽培】

Point

- 営農指導と作業の補助を受けながら実施
- 障害者就農の一環として
- 遊休農地の活用により、地域に貢献



事業実施のきっかけ、経緯

- 障害者の就農に取り組む活動の中で農業生産法人の代表と知り合い、作業の打診があった。障害者が取り掛かりやすい品目であることや、展開が可能な事から事業開始を決定。畑候補地の選定には、県農業開発公社や市農業公社と連携し、遊休農地の再利用を図りつつ、今後を見据えて地域や農業委員会などとの関係づくりも行なっていた。営農指導や作業機械の貸与を受けながら、出来る範囲で取り組める事業として、実践している。

事業概要

- 農業生産法人有限会社との契約で、無臭にんにくを栽培、収穫、分球、納品。
- 種子は貸与、肥料や機械使用料などは実費負担。
- 収穫したにんにくは全て農業生産法人が買い取り。

成果

- 30aの遊休農地を借り受け、8000粒のにんにくを種植。収穫後の納品金額は1kgあたり400円との契約を結び、見込収穫量を算定して事前に代金を受け取った。実数による差額は、収穫後の清算となっている。
- 屋外での作業が増え、「畑に行きたい」と希望される利用者さんの健康増進にも一役買っている。
- 収入昨年度比、約8パーセントアップ。

今後の展望

- 収穫量と作業比率を考慮して、より効果的な栽培を探っていく。
- 平成26年度は同規模(20～30a)の農地獲得による増産を予定。



にんにく種子植え作業



一粒ずつ丁寧に...



覆土してできあがり！



苗は順調に育っています。

雪が解けたら追肥作業。

収穫は7月を予定しています。

事業所より一言

畑作業だけでなく、清掃や販売、養鶏作業の他にも、企業から委託された様々な事業を行なっています。楽しみながら働くことで、自分に自信を持てる人になれるように...「共に生き、共に暮らす」を体現していく。それがわくワークなのです。

本事例の事業所紹介



社会福祉法人 花工房福祉会
就労継続支援B型事業所わくワーク
〒380-0803
長野県長野市三輪8-51-36
アサバハイツ宇木2F-8

TEL/FAX: 026-233-5210

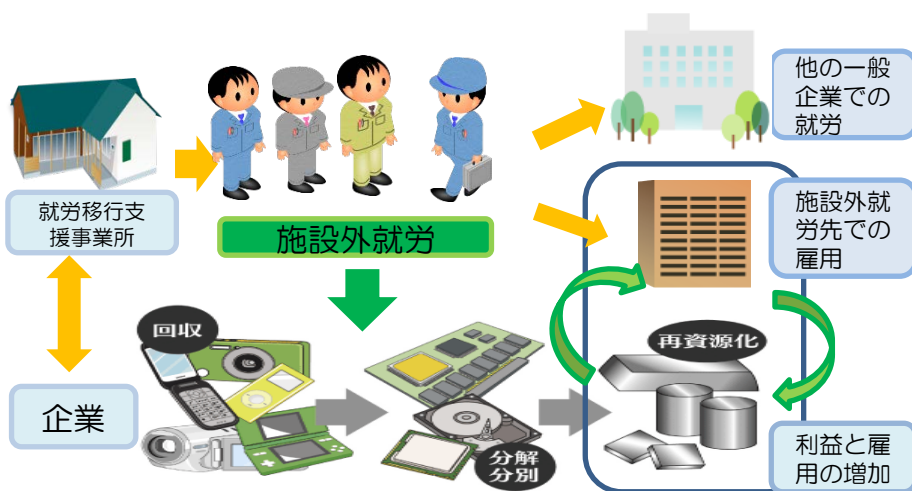
【カテゴリ4】企業連携

リサイクル企業と連携した施設外就労による 障害者雇用の促進

Point



- 施設外就労の活用
- 一般就労の訓練としてのリサイクル作業
- リサイクル企業での障害者雇用の促進



本事例の背景

- パソコン・携帯電話・ゲーム機などの機器には、多様な鉱物（金・レアメタル・銅・ステンレス等）が使われているが、現在までは、機器は廃棄されるか、または廃棄された機器を諸外国が輸入する状況が続いていた。
- 基盤を廃棄せず、鉱物を精製すると国内の資源確保につながるが、精製するためにはパソコンや携帯電話等を分解し、精製が可能な状態にしておく必要があるが、分解は手作業で行うため、根気のある人材を多数確保する必要がある。

本事例おける、それぞれの役割

リサイクル企業

- 就労移行の施設外就労を受け入れ、一般就労のための訓練の場を提供する。
- 再資源化により、企業の収益を向上させ、受け入れている就労移行支援事業所を含め、地域の障害者を雇用に貢献する。

就労移行支援事業所

- 施設外就労の人材を確保し、請負契約によるパソコン機器等の解体作業を責任を持って行う。
- 利用者にパソコン機器等の解体作業によって得られる、一般就労にむけた実践的な訓練を継続する。
- 施設外就労を経験した利用者を就職させる。また、施設外就労先の求人に希望する利用者を送り出すとともに、定着のための支援を行う。

本事例における効果

- 本事例による企業は、現在の障害者雇用の他に新工場を設立し、更に10名の障害者を新たに雇用する予定。企業の目標としては、ホールディングス内（5市町村に工場有）で100名以上の障害者雇用を行いたいと希望している。
- 障害者の雇用を拡大する新たな事例。

本事例の事業所紹介



株式会社 しんえこ

〒390-0852

長野県松本市大字島立2346番地

TEL 0263-47-3211 FAX 0263-47-3213

(株)しんえこ 建物風景



(株)しんえこ内 就労移行 施設外就労 風景



【 農福連携

Point

- 遊休農地の有効活用
- 地域の農家、学校、ボランティアと当事業所の連携
- 地元企業と当事業所の連携、商品化



事業実施のきっかけ、経緯

●2年前、「遊休農地があるので、エコーンさんで何か作りませんか？」と土地利用のお話があり、どうしたらよいかと思案していた折に、「大豆を作ってくれたら買い取りますよ」というお醤油屋さんがあることを知り、マッチングすることとなる。早速、ボランティアとして「食育」と「障害者理解」を兼ねて、地域の小学生と、ボランティアの方々、NPO法人グリーンケアながのの方々、マル斗醤油さんの協力を得て、長野市若穂川田の遊休農地に大豆の種まきをした。秋には皆で収穫し、良質の大豆を得ることができた。そして丹精込めて作ったお醤油を販売する運びとなる。

事業概要

- 醤油会社が醤油を仕込むのに必要な大豆を契約栽培している。
- 栽培中の作業は、地元の高齢者・小学生・アグリジョブサポーターの研修を受けた皆さん等、多くの方々の力をお借りしている。
- 地域の小学生には、作業体験・障害者理解の場になっている。

成果

- 年間約500kgの大豆収穫をし、醤油会社買い取ってもらった。
- 企業の力をお借りして信州産 丸大豆醤油 『みんなで作ったおしょうゆです。』を商品化した。
(内容量：250ml 希望小売価格：400円)
- 出来た醤油を販売することで新たな売り上げを上げられ、工賃アップにつなげられる。

今後の展望

- 多くの方の協力を得て大豆の契約栽培を毎年行ない、継続した事業として展開していく。
- 信州産 丸大豆醤油 『みんなで作ったおしょうゆです。』を、量販店などでも販売できるようにし、販売ルートを広げていく。



みんなで大豆を蒔きました



大豆栽培に関わった皆さんです



大豆の刈取りをしました



完成した『みんなで作ったおしょうゆです。』

事業所より一言

「生きるしあわせ」「はたらくよろこび」「地域といっしょに」を合言葉に、パン、豆腐の製造・販売・配達、花卉、野菜の育苗、委託作業など多岐にわたる事業を展開しています。

本事例の事業所紹介



社会福祉法人 花工房福祉会
〒381-2226
長野県長野市川中島町今井1387-1
TEL 026-283-8787 FAX 026-283-8703
E-mail: ecorn87@mx1.avis.ne.jp
<http://www.avis.ne.jp/ecorn/>

カテゴリ【1】農家との連携

【社会福祉法人の就労支援活動による地場産業（茶）の活性化】

Point

- 休耕茶畑の活用
- 高齢化等に伴う地域の労働力不足の解消
- 施設の仕事づくりと地場産業の活性化



事業実施のきっかけ、経緯

- 高齢などの理由で耕作放棄された茶畑が地域に多数ある
- 地場のお茶パウダーを使った商品開発をきっかけにお茶関連の仕事のやりとりや茶畑の管理を始める

事業概要

- 休耕茶畑を借り受け、生産農家より技術指導を受けながら、畑の管理とお茶の収穫販売を行う。
- 生産農家とともに地域のお茶関連商品を共同開発し、施設で生産するとともに販売を行う。

本事例おける効果

- 休耕地を活用することで低コストで事業開始ができる。また技術指導を得ることで、施設の仕事づくりとして安定して運営ができる。
- 地域は不足しがちな労働力を確保できる。また、生産農家は施設の菓子製造業を利用して、自主製品を作れる。
- 農家の販路と施設の販路両方を活用できる

今後の展望

- お茶の時期(4～10月)以外の通年の活動を検討中
- 茶畑の管理の拡大と利用者の工賃アップ

揖斐茶畑風景



作業 風景



どんな障害者も生き活きと暮らしていける社会の実現を目指し、障害者自身とその家族、職員、地域の人々が、力を合わせて活動しています。

また、障害者に対し、障害の種別、程度に応じた適切な支援方針によって療育的な面を配慮しながら作業訓練を行い、集団における協調性を養い、社会の中で自立していけるように支援をします。

本事例の事業所紹介



社会福祉法人 いぶき福祉会
いぶき

〒502-0907

岐阜県岐阜市島新町5番9号

TEL: 058-233-7445 FAX: 058-232-9140

【与えられたもの一つ一つを大切にしようとする 試みが実を結び。】

Point

- 安全な食の追求が職を生む。
- 型にはまることなく私達ならではの活動を推進。
- 想いを共有しあえる仲間とのネットワークづくり。



事業実施のきっかけ、経緯

●代表が福祉大学を経て就職した知的障害者の更正施設での、純粹無垢な「人たち」との衝撃的な出会いが発端となり、健常と障害の区別、障害別で区切らない、お互いを認め受け止め支え合う場を夢見てきました。

また、ある友人から知的ハンディを持つAさんのことで相談があり、何とかならないかと思い軽作業を始めました。スタッフはすべてボランティアで、さまざまな支援を実践していました。

2001年、数名の有志と共に、三方原町に土地と家屋を購入し、トータルケアセンターと名をうって立ち上げました。1年半はボランティア運営で、すべて持ち出しであったが浜松市の認可事業としてスタートすることができた。

事業概要

- 農業のベテランをスタッフに迎え、1200坪の畑で無農薬野菜づくりやイスラエルの天然天日塩の精製、インドのスパイスの製粉等。
- 無添加の薬膳カレー・ナチュラルハンバーグなど、自然素材の味を生かした豊富なメニューを揃えています。50種のハーブも魅力。
- ブレックファーストレストラン街にとんかつ屋をやっています。

高齢者向けの宅配弁当事業をえん配食サービスを展開。縫製事業では、東南アジアからの輸入事業も手掛けています。また、2台の移動販売車で温かいカレー販売やインターネットショップも開店。

日本のトップパティシエとコラボして福祉事業所で作られた手作り焼き菓子、自然化粧品、手作りジャム等の販売をしています。

成果

- 独自の就労システム（継続支援B→移行支援→継続支援A）の中で、よりストレスの少ない環境の中で雇用に結びついたメンバーさんが生まれた。現在、9万円～20万円近くの給与で働く方が、20人弱いる。
- 地元の企業の方からの要望に答えるために、自分たちの生産能力の枠を超えて、海外の製造輸入ルートを開拓し、簡易作業・パッケージを収入に結び付けた。（継続的な大量受注を実現した）
- 高齢者の宅配弁当を進める中で地域の方との管が生まれた。（地域の福祉的ニーズをより近い所で知ることが可能）
- 市役所、保健所、大学病院等での弁当販売は、自分たちの取り組みを知ってもらう大きな広報活動の場ともなっている。
- 移動販売の中で培った能力を災害支援でも生かす事ができた。

今後の展望

- 小規模作業所『グレース工房』の拡充。施設の整備及びハンディを持つ方々の雇用拡充。
- 喫茶店や店舗を持ち、一般社会で当たり前障がい者も働いている職場作りを行うと同時に、社会の認知を促進し、浜松市の福祉促進の一助となることを目指します。
- 今後、共に支え合う場として市民のボランティア活動の場を提供することや、障がい者（児）・子ども（託児所）・お年寄りが共生できるグループホーム建設を目指しています。



事業所より一言

私たちは正しい自尊心を持つことを学び、人を大切にすることを学んで来ました。この価値観に生きると決めた仲間がいたからこそ今のトータルケアセンターがあります。

グレースグループは、「与えられたものを大切に」を合言葉に自然で安全な食を追及しながら、人を大切にする仲間の輪を広げていきたいと考えています。

本事例の事業所紹介



NPO法人トータルケアセンター

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町2041-3

TEL: 053-414-5202 FAX: 053-414-5202